

—昭和57年度支部総会報告(3)—

(総会開催順)

北海道支部

開催日 昭和57年5月28日(金)
 場所 北二条クラブ
 議事

1. 昭和56年度事業報告書

1. 研究会

次の2件を実施した。

(1) 野球のOR

講師 沼田 久(小樽商科大学)

(2) 情報システム開発におけるプロジェクト管理

講師 斉藤祥生(北海道電力㈱)

2. 講演会

下記のように実施した。

実施年月日 昭和56年8月12日

演題 不確実性下の損益分岐点分析について

場所 札幌市中央区北一条西2丁目 経済センタービル7F

講師 平田正敏(西南学院大学 商学部 教授)

3. 国際講演会の後援

地域と交通研究会, 北海道情報開発研究会, 札幌アメリカンセンター共催によるMIT国際講演会のシンポジウムの後援をした。テーマと講師は次のとおり。

(1) エネルギー・環境問題と交通政策

マーヴィン・L・マンハイム

(2) 非集計モデルとその都市計画への適用例

スティープン・R・ラーマン

(3) 交通システムの運営政策とその評価手法

モッシュベンアキバ

2. 昭和56年度決算報告書

(1) 貸借対照表

昭和57年2月28日

科目	金額	科目	金額
現金	136,825	前期繰越金	393,028
預金	258,250	当期運営残高	2,047
合計	395,075		395,075

(2) 収支計算書

自 昭和56年3月1日 至 昭和57年2月28日

科目	予算	決算	備考
(収入の部)			
本部交付金	178,000	178,000	
参加費	20,000	16,500	
資料等頒布収入	0	0	
受取利息	0	6,216	
雑収入	0	0	
合計	198,000	200,716	
(支出の部)			
会議費	60,000	55,987	
講演会費	70,000	73,342	
研究会費	70,000	10,000	
通信費	40,000	24,490	
交通費	10,000	0	
事務費	10,000	7,350	
予備費	30,000	27,500	
合計	290,000	198,669	
当期運営残高		2,047	
前期繰越金		393,028	
次期繰越金		395,075	

3. 昭和57年度事業計画書

1. 研究会 年間3~4回実施する。

内容については、別途検討する。

2. 講演会 今年度1回実施する。
テーマ・講演者については別途決定する。
3. 普及活動 適宜実施する。
4. その他
5. 支部役員と本部評議員について
別表のとおり。

		交通費	10,000
		事務費	10,000
		予備費	30,000
		次期繰越金	377,075
合計	657,075	合計	657,075

4. 昭和57年度収支予算書

自 昭和57年3月1日 至 昭和58年2月28日

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
前期繰越金	395,075	会議費	60,000
本部交付金	242,000	講演会費	70,000
参加費	20,000	研究会費	70,000
		通信費	30,000

5. 昭和57年度北海道支部役員

支 部 長 紺野功一(北電)
 運営委員 沼田 久, 樋口 透(小樽商大), 浅利英吉(東海大), 加地郁夫, 大内 東(北大), 三浦良一(旭川工専), 天野豊治(道工大), 村上 融(国鉄), 中山道夫(北電), 中野裕宇(北海道ビジネスオートメーション), 関 正治(自短大)
 幹 事 関口恭毅(北大), 斉藤祥生(北電)
 監 事 土屋静夫(電々)

研究部会報告



●環境システム●

日時：6月16日(水)18:00~20:00 場所：日科技連
 出席者：5名 発表：蔵野正美(千葉大) マルコフ過程の適正制御について

推移確率行列が未知の場合のマルコフ決定過程の研究は種々の見地(たとえばゲーム論的, 最尤法, ベイズの方法)で行なわれている。ここでは学習政策を定義して, 学習政策と最適政策との関係を調べた。

●予測とその周辺課題●

●第25回 日時：6月16日(水)18:00~21:00 場所：早大システム研 出席者：12名 議題：TIMS 文献輪読
 (1) ARIMAモデルによる多品目在庫量の予測技法 村中 聖(運輸調査局)

個々の品目の予測において, 1つ1つ単独に予測するのではなく, 品目の全体量の予測と, 個々の品目の全体に対する割合の予測とその相関関係とに分割して, AR-IMAモデルを適用した場合を展開している。

(2) 直感予測 浪平博人(ブリヂストンタイヤ)
 直感予測の陥りやすい性質(非回帰性, 過信効果等)を示し, なるべく精度を上げるための手順を提案している。当面の問題のみを内的に考えるのではなく, その問題に

関連する関連クラスの情報を利用することが, 直感予測の精度向上に役立つことを示している。

●政策問題●

●5月例会 日時：5月15日(土)14:00~17:00 10名
 場所：三菱総研会議室(タイムライフビル) 議題：公開鍵暗号系の開発 講師：細貝康夫(三菱総研)

情報システムの発展により, 通信回線を経由して伝送される情報の増加と並行して, いろいろな知的犯罪も増加している。これを防御するため暗号化手法による対策がとられるが, 慣用暗号系と公開鍵暗号系が用いられる。講師が協同システム(株)に出向中従事した, 公開鍵暗号系の解説と, これの用いられる市場およびこの発展の方向について論議した。

●6月例会 日時：6月19日(土)14:00~17:00 14名
 場所：三菱総研会議室(タイムライフビル) 議題—1
 合意統合手法の実践について 講師：今村和男(防衛大)
 地方都市行政の内で, いかに市民の要望の合意統合を計っていくかのケーススタディをY市を例に報告した。
 議題—2 経営力指標について 講師 高橋明良(三井情報開発)

通産省企業行動課が, 慶大清水龍登教授の指導のもとに企業経営の実証分析を昭和49年から実施している。報告書は『経営力指標』として, 昭和51年, 52年, 53年, 54年, 56年度のもので出版されているが, この研究に参加している高橋氏が出席し, この調査・分析のねらいと研究の経過を解説した。この報告について企業の現実の問題や手法をめぐっての熱心な討論が行なわれ, 参加者はそれぞれに充実した土曜日の午後の時間をすごした。